

都城市議会議長 様

提出日 令和 8 年 8 月 28 日

氏 名 川内 賢幸

研 修 報 告 書

以下のとおり研修の報告をいたします。

1 所属会派名

自民党市民の会

2 研修名

全国若手議員の会 第 34 回定期総会及び研修会

3 受講場所

三重県四日市市 四日市本町プラザ

4 受講期間

令和8年8月5日（水）

5 研修内容

【基調講演】 三重県四日市市長 森 智広 氏

「中心市街地 再開発プロジェクト」

【研修】 青山社中 筆頭 CEO 朝比奈 一郎 氏

「地域リーダーシップと始動力」

視察先に選んだ理由は、「中心市街地再開発」という本市でも抱える課題に対して、四日市市がどのような取り組みをしているのか、議会改革度ランキング長年1位となっている四日市市議会がある自治体ということも選定理由。

もう1点、研修内容については人口減少や経済の不安定さ、地域力の減退が見られる中で、議員として何ができるか、どんな力が求められているかを学ぶため選定。

◎四日市市 中心市街地再開発プロジェクト

近鉄四日市駅と JR 四日市駅を結ぶ直線上の中央通りを再開発していくプロジェクト。近鉄四日市駅周辺等整備基本構想に基づいて進められており、国土交通省が進めるバスやタクシーなどの乗降場を集約してバスターミナルを整備する「バスタプロジェクト」の事業化を受け再開発が進められている。ちょっと歩いたら何かあるポイントを設けることをコンセプトの一つとして進めており、民間活力の活用 PFI にも取り組んで進めている。開発の様子や将来のまちなみを SNS で積極的に配信するなどし、注目を集めていた。

◎「地域リーダーシップと始動力」研修

リーダーシップとは何かを考えることを柱とした内容。「リーダーシップ＝変革力・始動力」という概念から始まり、地域活性化は、自治体中心から民間活力へシフトチェンジしていく段階に入っている。リーダーとは Change する人であり、変革者であること。すべての責任を受け、部下を思い自由な発想を持つこと、そのために率先垂範して動いていくことが求められる。

議員として、地域をどのようにリードしていくのか、その資質として必要なものは何か、改めて問われる内容であった。

6 研修の感想

◎基調講演「中心市街地再開発プロジェクト」

国の事業「バスタプロジェクト」に中部地方として初めて事業化された点は大きな優位性が感じられた。視察で利用した JR 四日市駅は都城駅ほどの規模しかなく、人口規模が30万人のまちの駅としては信じられない状況であった。

一方で、近鉄四日市駅は地域交通の拠点となっており、周辺の建物も市の規模に相応しいものであった。

四日市市の基本構想では、この二駅を起点として中心市街地再開発の目玉と据えて取り組んでいた。近鉄四日市駅方面から JR 四日市駅に向かって 1.6 k m の再開発が行われており、民間活力による開発や PFI も活用しながら「ちょっと歩けば何かある」をキーワードにポイントを設けていく計画となっていた。

また、SNS を積極的に活用して「ニワミチよっかいち」「バスタ」の周知啓発にも取り組んでいたことも注目すべき点であり、再生回数が 20 万回を超えるなど注目を集めていた。

大規模なまちの再開発を行うに当たり、市民や民間を巻き込んで総出の取り組みを推進しており、自治体単体での推進よりもパワーを発揮でき、市民にとっても短期中期のまちのビジョン、生活ビジョンを描きやすい点は非常に有益と感じた。

◎研修 「地域リーダーシップと始動力」

「一人の王が手柄を立て、周りは骸骨になる」、この言葉は衝撃であった。特に自治体においては、トップ一人で物事を動かすことはできず、そこには多くの職員の職務遂行がなければならない。どんなに素晴らしいアイデアもひとりで形にして成果を上げることはできない。

リーダーに求められる「率先垂範」の精神の先に「すべての責任は私が取る」心構えを持ち、「部下を思い、自由な発想を認めていく」ことが求められるという話も興味深かった。

議員という立場において、地域でリーダー的役割を担う機会は少なくない。研修において、リーダーとは変革者であり、リーダーとは「志を達成する人」であるとの話もあった。

そして何より「地域の活性化」は 20 年計画で見るということというのが印象深かった。

「1970年から90年は国にも東京にも余裕があった。90年から2010年までは、過去に囚われて大きな進展はなかった。そして今、2010年から2030年は、国にも東京にも余裕がなくなってしまった。」今まさに、次の20年につながる重要な時代である。

全てに余裕がない状況だからこそ、自分たちでやるしかない。そのためにはリーダーの始動力が必要であり、現在の合理主義から、今後どのように地域活性化を進めていくかを考えた場合に、非合理的な考え方、つまりは文化的歴史的なつながりや、まちの将来を考える市民の熱量が必要となってくる、という部分に関心を持った。

市民のまちに対する熱量があるうちに、大なり小なりリーダーシップを発揮していくその一歩が、次の20年を作ると信じて取り組みを続けていかねばならない。

7 研修の成果及び市政への反映

中心市街地の活性化は、本市でも長年の課題である。その施策として Mallmall があるが、2018年4月に開業後既に8年が経過した。このプロジェクトには、中心市街地再生という大きな使命があり、個人的にも大変関心の高い事業の一つである。完成に至るまで、市民ワークショップやアンケートを実施して市民の声も取り上げてきた。そのことが、いまの姿につながっていると感じている。

一方で、まちなか広場や図書館に行ったことがないとする市民の声も市民アンケートでは見かける。その背景に何があるのかをしっかりと検証し、今後のまちの発展に繋げる必要があると感じている。

まちなか広場の存在が、まち全体を牽引する力となっていない背景には、中心市街地活性化が政策ではなく事業であるからではないか、そのように感じる。すべての市民を巻き込むというのは難しいが、15地区の力を合わせ、官民協働、官民共創の取り組みが本市でも求められていると考える。

リーダーシップ研修においては、【リーダー＝変革者】であるということ、リーダー

には始める力が必要であり、その裏には、率先垂範精神とともに「責任を持つ」という心構えが必要ということを改めて認識できた。「一人の王が手柄を立て、周りは骸骨となる」、この言葉は自分自身への戒めとして、議会活動、議員活動において意識していくべきことだと思う。

市の事業に対するチェック機能や、ブラッシュアップ、各種提言をしていく上でも大変重要な視点と考え方であり、やはり物事は一人では達成できず、2元代表制のもと両輪として、そして、市民の熱量を燃料として活用してこそ、20年先の未来を作る政策が展開できるのだと肝に銘じておきたい。

中心市街地活性化とリーダーシップ、別物の研修のように思うが、根底では同じ考え方が求められていると感じた。今回の研修が市の発展はもとより、議会人として市民の負託に応えることができるように活かしていきたい。

8 添付資料

